（海外・国内）出張報告書（学生用）　　2015 年 3 月 24 日提出

氏名	山口　智之
所属	バイオリソース部門
学年	博士課程 2 年
出張先	世界保健機関 西太平洋地域事務局
出張期間	2015 年 3 月 7 日 ～ 2015 年 3 月 11 日
目的	世界保健機関 西太平洋地域事務局の視察

活動内容（2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい）

フィリピン、マニラ市内の世界保健機関 西太平洋地域事務局 (WHO WPRO)の活動を視察した。今回の出張では、主に午前は Health security and emergencies 部門の Emerging disease Surveillance and Response (ESR) チームの活動を見学し、午後は職員から WHO WPRO の活動についての説明を受けた。

1. ESR チームの活動見学

報告者らが視察を行った期間中、海外インターンシップとして同チーム内で活動中であった直亨則さん (国際疫学部門、博士課程 3 年) から、実際に従事する仕事内容や毎日のスケジュールなど、今後インターンシップ先を決める際に参考となる大変有用な情報を得た。

ESR チームでは、毎朝 8 時 30 分頃に行われる部門内での Morning meeting に向けて午前 7 時に Pre-morning meeting を行っている。この Pre-morning meeting では、その日の朝までに西太平洋地域内外で発生した事例について、チームメンバー各自が WHO 内のメールや多数のウェブサイトから網羅的に収集した情報を出し合い、その後の Morning meeting にて部門内に周知する必要があるかの話し合いが行われる。報告者らの視察中は、この情報収集は 6 時頃から行われていたが、メンバーの習熟度や、

写真 A

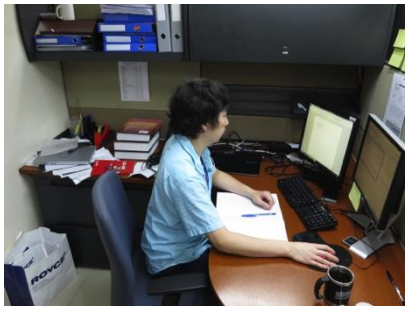

写真 B

写真 C

事例の発生状況などにより 5 時 30 分頃から行われることもある (写真 A)。報告者らも実際に使われている情報源を使って収集を試みたが、様々な感染症の新規発生やアウトブレーク、収束、または公衆衛生上懸念される公害などの情報が混交しており、WPRO としてどの事例を注視すべきかを考慮しながら情報を選定する作業は容易ではなく、熟練が必要であろうと感じられた。

Morning meeting では Pre-morning meeting で今後の注視が必要と判断された事例についての情報共有がなされる。このとき、必要に応じてプレゼンテーションを作成し説明を行っていたが、これも Morning meeting までのわずかな時間で作成しており、普段から十分準備がなされていることが窺い知れた。

このほか、Health security and emergencies 部門内の進捗報告会を見学することができた。ここでは ESR チームのほか、Emergency and humanitarian action チームや Food safety チームからの情報共有も行われていた。互いの報告に対し、部門内のスタッフによる活発なディスカッションが行われ、より多くの情報を要する箇所やより深く掘り下げて調べなければならない事項など意見交換がなされていた。

これらの会議は Emergency operation center (写真 B) で行われていた。同室の壁面には高病原性鳥インフルエンザやデング熱の発生状況など現在の懸念事項についての最新の情報が掲示されており、部門内スタッフの共有が図られていた (写真 C) 。それらの更新も部門内のスタッフが行っている。

2. WHO WPRO 職員からの説明

期間中、職員から直接 WHO の活動についてのプレゼンテーションを聞く機会があった。Health security and emergencies 部門ディレクターDr. Ailan Li からは WHO とその地域事務局である WPRO の方針や活動の概要について、ESR チームリーダーDr. Chin Kei Lee からはディスカッションを交えながら ESR チームの活動について紹介され、WHO の広範な活動内容を知ることができた。Dr. Frank Konings からは、西太平洋地域内の研究・診断機能の充実を目指す WPRO の活動について、それらの機能が十分であるかを評価する external quality assurance (EQA) など具体的な内容も含めた説明を受けることができた。

また葛西健先生と会談の機会があり、WHO WPRO の活動やリスクアセスメントの考え方についての話を聞くことができた。

3. 総括

今回、ESR チームの見学や職員からの説明を通して、国際連合機関である WHO WPRO の取り組みがどのようなものであるかを直接的に学習し得た。WHO は大学や

その他の研究機関とは大学や研究機関と関係が深いものの活動内容は大きく異なっており、“policy”の色合いがとても強いものであるとの印象を受けた。しかしながら、その活動は感染症や公衆衛生についての考え方に基づいており、やはりそれらへの造詣は大きな助けであることが、十分理解し得た。

今回の視察は Health security and emergencies 部門内が中心であったが、これまで想像に難かった WHO の活動について、より具体的なイメージを持つことができ、今後のインターンシップ先、または博士課程修了後を考えるにあたって大変有意義であった。

指導教員確認欄	所属・職・氏名： バイオリソース部門・教授 鈴木 定彦　　印

※1　電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545　e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp